

第2回ZPSC役員会（合同）議事録

日時 平成22年4月14日（水）午後1時30分～

場所 東地区文化センター保育室

出席者 ZPSC 土持、鈴木、竹本、木下

公民館 下島、植松、淀川、林、新井（記録）

議題 パソコンボランティア養成講座について

（１）これまでの経過について

（館から）

・サポートクラブ会員の休会・退会により、館側からの要請に応えることが難しくなっている。同時に新しい方に加わっていただき、講師の層を厚くしたいとのサポートクラブからの要望もあり実施する。

・これまでの役員会の中で、講座の回数は3回、企画は館側で行うということになっている。

（２）講座のコンセプトの確認

（館から）

・パソコンOSの技術を持っている人が、それを人に教授するために必要な技術を修得する。

・現在活動中のパソコンサポートクラブへの加入をとおして、市のパソコン講座の講師として活動するために必要な知識を取得する。

（質疑応答）

（館）養成講座の話が出た当初は、本格的なインストラクターの養成というイメージを持っていたが、今回はすでにある程度のパソコンのスキルのある方に対して講座を行い、即戦力としてサポートクラブに加入してもらうような形で考えている。ただし、本来であれば長期間かけて行うものであり、今回の時間、内容で責任をもって教えてくれる講師がいるかという問題がある。

（パ）サポートクラブ入会を前提に進めることができるのか。

（館）受講者は入会を前提に募集していきたい。

（パ）あと2年でパソコン講座が終わるということは受講者に伝えるのか。2年後にサポートクラブが終わってしまっても意味がない。

（館）2年後のパソコンリース切れによりサポートクラブの活動する内容が無くなるとは考えていない。パソコン講座への市民のニーズが減少している中、リース切れ以降、現在の形での継続は難しいと思うが、別の形で依頼することが出てくると思う。（学級の中

の1コマとしての講座、館でホームページを作ることになった際の協力、学校でのパソコン教室の開催などの例をあげた。)

(館) 今後、利用者がパソコンを持ち込んで使えるなどユビキタスな環境整備等の施策の部分について考えていく必要がある。

(館) サポートクラブとしてパソコン講座継続の要望があれば、我々としても続ける努力はしていきたい。そのためのパソコンリース、LAN環境の整備などについて、予算要求はしていきたい。

(パ) LAN環境が残れば、受講者が各自のパソコンを持ち込むことで、パソコン講座を続けていくことは可能だと思う。

(3) プログラムについて

(館から)

- ・案について別添資料に沿って説明。
- ・前述の経過のとおりパソコン講座の運営自体が厳しいというのが現状である。
- ・養成講座の構成は サポートクラブの内容紹介、 ヒューマン・ファシリテーション・コミュニケーションスキルについて、 パソコンの技術的スキルについてとした。
- ・サポートクラブに加入してもらうことが大前提である。
- ・日程は3日間、場所は公民館か東地区文化センターで行う。

(質疑応答)

(館) 「インストラクター養成講座」として募集すると、資格が取れると思う人が出てくることが考えられ、また、すでに一定の技術を持っている方であれば、より高いレベルを求められるのではないかと思う。このような学習ニーズに応えられる内容にするには予算、時間的な部分で難しいので、今回の案は公民館的な内容にさせてもらった。

(館) 案では初回にサポートクラブによる模擬講座とあるが、7月に行うエクセル入門講座を受講者に見てもらう(もしくはサブとして入ってもらう)ということも検討したい。

(パ) サポートクラブとしては問題ないと思う。

(館) 養成講座の講師交渉は早急に進めさせていただく。なお、講座内容について、案のほかにサポートクラブ側で入れてほしいことがあれば早い段階で出してほしい。また、養成講座の講師にサポートクラブがどのような形で講座を行っているか伝える必要があると思うので、エクセル入門講座のカリキュラムをいただきたい。

(パ) 了解。

(館) 現在のサポートクラブ会員のブラッシュアップについて、養成講座にいっしょに参加するということがよい。

(パ) 参加希望者の人数を確認して報告する。

(館) 一般の受講者が多い場合は参加できないこともあることをご承知いただきたい。